

第3章 フッ化物洗口の実際

1 フッ化物洗口を始めるにあたって

(1) 始める前に

① 市町行政内の意思統一

市町が主体となってフッ化物洗口を導入する場合は、まず、行政内部の意思を統一することが大切です。また、当初から専門家である地元の歯科医師（会）等に相談するなど、関係者の協力を得るようにします。

② 関係者の理解・合意

フッ化物洗口に関わる市町や歯科医師、施設責任者等の関係者が協議を行い、その方針に基づいて事業実施計画を策定します。

③ 現場の理解・合意

実際にフッ化物洗口を実施する場となる施設の職員の理解を得るため、説明会を開催します。フッ化物洗口に関する基礎知識を習得し、課題等を検討するなど、実施に向けた体制づくりを行います。

説明会の講師としては園歯科医師や、歯科医師会で選定された担当歯科医師が最適です。また、すでに実施している施設の見学も参考になります。

説明会後は、施設にて歯科保健アンケート（様式例 4-①実施前）を行いましょう。

④ 保護者の理解

保護者がフッ化物洗口に関する知識と情報を共有できるよう、説明会の開催や資料の配布を行います。不安を持つ保護者に対しては、十分な説明を行い、不安を取り除く働きかけを行います。

保護者に理解を得てから、なるべく早めに実施するかどうかの希望調査をします（様式例 1）。

⑤ フッ化物洗口実施の準備

園歯科医師等に指示書の発行を依頼し、洗口に必要な器材等を購入します。

また、フッ化物で洗口する前に、園児は水道水で1、2週間程度うがいの練習をします。準備が整い、園児がブクブクうがいができるようになれば、フッ化物洗口を開始します。

⑥ フッ化物洗口開始後

洗口は継続することが大切ですが、一定期間の洗口実施後に、一度安全に行えたか等の振り返り評価を行います。歯科保健アンケート（様式例 4-②実施後）も行ってください。

また、フッ化物洗口を開始した後も、定期的な施設職員の研修や、適切な実施体制にあるか、実施主体の市町や関係機関による確認や支援が必要です。

(2) 実施における留意点

- ・フッ化物洗口の中途での中止や実施希望は随時受け付けます。
- ・説明会に出席できなかった保護者に対しても、説明会の資料等をできるだけ配布します。
- ・新入又は転入する園児がいるため、毎年必ず保護者向け説明会を実施します。
- ・フッ化物洗口はできるだけ多くの園児が実施することが望ましいですが、強制ではなく、保護者の希望により実施するものなので、参加の意向確認については承諾書の形式はとらず、希望調査書のような形式とします。
- ・希望調査書は、押印は不要であり、希望しない保護者も含め必ず全員に提出してもらいます。

2 フッ化物洗口の実施方法

(1) 洗口回数・薬剤の決定

施設において集団でフッ化物洗口を行う場合は、対象者や各施設の実情に応じて週あたりの洗口回数を決定します（表2）。簡便かつ安全に洗口を行うため、薬剤についてはフッ化ナトリウム試薬ではなく、必ず市販のフッ化物洗口剤（ミラノールあるいはオラブリス）を利用しましょう。

園歯科医師等がフッ化物洗口剤の指示を行い（様式例2）、それを施設職員が、決められた量の水道水に溶かしてフッ化物洗口液を準備します。

フッ化物洗口剤 ※効果に差異はありません。

●ミラノール顆粒 11%

（株）ビーブランド・メディコーデンタル製

- ・わずかな苦みがある
- ・白色の顆粒
- ・古くから使用されている
- ・1.0g、1.8g、7.2g（7.2gのみスティック包装）がある

※ミラノール®は（株）ビーブランド・メディコーデンタルの登録商標です。

●オラブリス洗口用顆粒 11%

昭和薬品化工（株）製

- ・無味無臭
- ・ピンク色の顆粒で、溶け残りがいないか確認しやすい
- ・ミラノールより安価
- ・1.5g、6.0g（ともにスティック包装）がある

※オラブリス®は昭和薬品化工（株）の登録商標です。



表2 フッ化物洗口の方法

主な対象	洗口回数	1回の洗口液の量	薬剤の種類	1包の量 (g)	1包当たりの水の量 (ml)	フッ化物ナトリウム濃度 (洗口液のフッ化物濃度)
保育所 幼稚園	週5回	5ml 又は 7ml	ミラノール	1.0	200	0.055% (約 250ppmF)
				1.8	360	
			オラブリス	1.5	300	
				6.0	1,200	
	週2、3回	ミラノール	1.8	200	0.099% (約 450ppmF)	
			7.2	800		
オラブリス	1.5	167				
	6.0	664				
小学校 中学校	週1回	10ml	ミラノール	1.8	100	0.198% (約 900ppmF)
				7.2	400	
			オラブリス	1.5	83	0.199% (約 900ppmF)
				6.0	332	

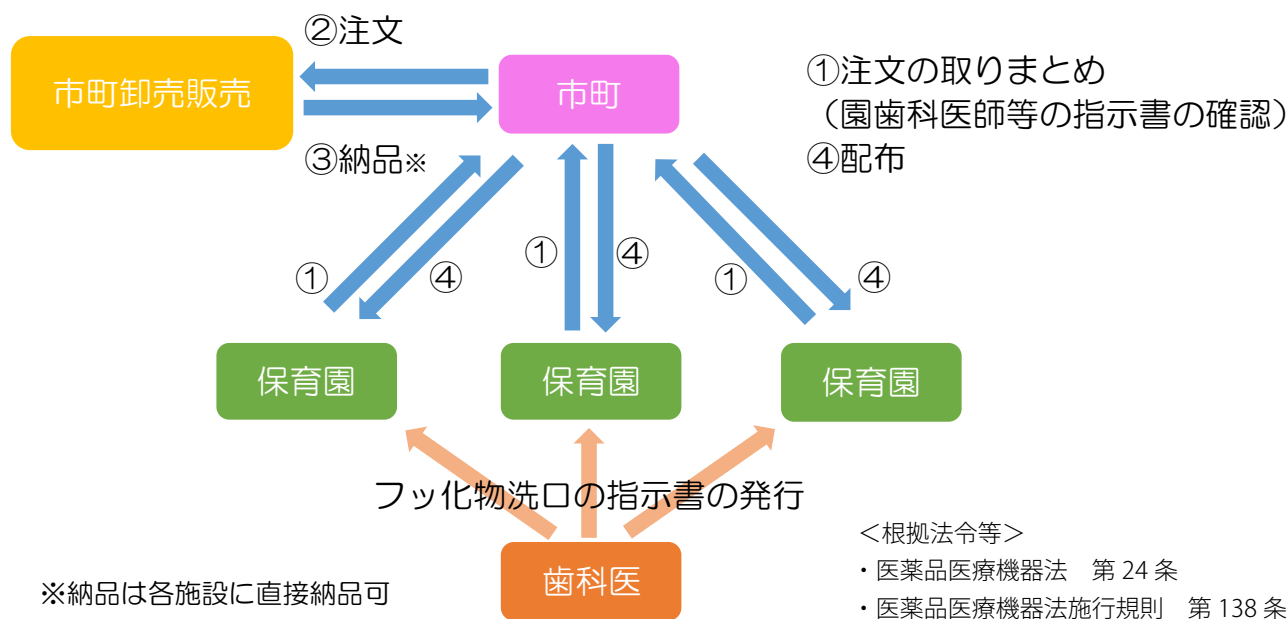
(2) フッ化物洗口剤の購入方法

フッ化物洗口剤は処方箋医薬品以外の医療用医薬品であるため、購入には「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（以下、医薬品医療機器法という。）」等を順守しなければなりません。

フッ化物洗口剤は、使用者本人が薬局で対面販売を受けることが原則となるため、使用する施設の長が園歯科医師等の指示書に基づき、薬局または卸売販売業者に発注します。

市町が各施設の分をとりまとめて購入する場合は、図14のように「歯科医師の指示に基づく購入であること」及び「配布先を明確にすること」で薬局や卸売販売業者からまとめて購入することができます。市町に納品する際には、卸売業者が発行する各施設の長あての納品書の添付が必要です。

図14 市町が各施設分のフッ化物洗口剤をまとめて購入する方法



(3) 薬剤の管理

洗口液の作成、保管等は施設管理者、看護師、養護教諭等が中心となって行います。各クラスでの洗口の指導、管理、監督は各クラスの担任が行います。

希釈前のフッ化物洗口剤は、劇薬扱いとなるため他のものと区別して保管する必要があります。法的には施錠の義務はありませんが、管理上、施錠して施設の責任者が確実に管理してください。

希釈後の洗口液は、フッ化物濃度が1%以下となって劇薬から除外されるため、他のものと区別して保管するという規制の対象外となりますが、フッ化物洗口液であることを明記して冷暗所等に保管してください。

必要な薬剤量の目安

洗口回数や実施人数、1回の洗口液量に応じて、下記の例や表を参考に、1週間分の必要な薬剤量（洗口液量）を決めます。

●週5回法（1人1回洗口液量5ml）の場合

（例）実施人数40人 ディスペンサー付きボトル1本使用の場合

- ・使用する洗口液量 $5\text{ml} \times 40\text{人} \times 5\text{回} = 1,000\text{ml}$ — A
 - ・ディスペンサー付きボトルの必要残量 $50\text{ml} \times 1\text{本} = 50\text{ml}$ — B
- 必要な薬液量 $A + B = 1,050\text{ml}$

※ディスペンサー付きボトルは50～100mlの残量が必要なため、ボトル数×50～100mlを加えて計算すること。

<使用する洗口液量>

①オラブリス1.5gを使用

実施人数 (人)	洗口液量 (ml)	作成量	
		オラブリス1.5g (包)	水 (ml)
～ 12	～ 300	1	300
13 ～ 24	325 ～ 600	2	600
25 ～ 36	625 ～ 900	3	900
37 ～ 48	925 ～ 1,200	4	1,200
49 ～ 60	1,225 ～ 1,500	5	1,500
61 ～ 72	1,525 ～ 1,800	6	1,800

②オラブリス 6.0g を使用

実施人数 (人)	洗口液量 (ml)	作成量	
		オラブリス 6.0g (包)	水 (ml)
～ 48	～ 1,200	1	1,200
49 ～ 96	1,225 ～ 2,400	2	2,400
97 ～ 144	2,425 ～ 3,600	3	3,600

③ミラノール 1.0g を使用

実施人数 (人)	洗口液量 (ml)	作成量	
		ミラノール 1.0g (包)	水 (ml)
～ 8	～ 200	1	200
9 ～ 16	225 ～ 400	2	400
17 ～ 24	425 ～ 600	3	600
25 ～ 32	625 ～ 800	4	800
33 ～ 40	825 ～ 1,000	5	1,000
41 ～ 48	1,025 ～ 1,200	6	1,200
49 ～ 56	1,225 ～ 1,400	7	1,400
57 ～ 64	1,425 ～ 1,600	8	1,600

④ミラノール 1.8g を使用

実施人数 (人)	洗口液量 (ml)	作成量	
		ミラノール 1.8g (包)	水 (ml)
～ 14	～ 350	1	360
15 ～ 28	375 ～ 700	2	720
29 ～ 43	725 ～ 1,075	3	1,080
44 ～ 57	1,100 ～ 1,425	4	1,440
58 ～ 72	1,450 ～ 1,800	5	1,800

●週2回法（1人1回洗口液量 5ml）の場合

（例）実施人数 40人 ディスペンサー付きボトル1本使用の場合

- ・使用する洗口液量 $5\text{ml} \times 40\text{人} \times 2\text{回} = 400\text{ml}$ - A
 - ・ディスペンサー付きボトルの必要残量 $50\text{ml} \times 1\text{本} = 50\text{ml}$ - B
-
- 必要な薬液量 $A + B = 450\text{ml}$

※ディスペンサー付きボトルは 50～100ml の残量が必要なため、ボトル数×50～100ml を加えて計算すること。

<使用する洗口液量>

①オラブリス 6.0g を使用

実施人数 (人)	洗口液量 (ml)	作成量	
		オラブリス 6.0g (包)	水 (ml)
～ 66	～ 660	1	664
67 ～ 132	670 ～ 1,320	2	1,328
133 ～ 199	1,330 ～ 1,990	3	1,992

②ミラノール 1.8g を使用

実施人数 (人)	洗口液量 (ml)	作成量	
		ミラノール 1.8g (包)	水 (ml)
～ 20	～ 200	1	200
21 ～ 40	210 ～ 400	2	400
41 ～ 60	410 ～ 600	3	600
61 ～ 80	610 ～ 800	4	800

(4) 必要物品一覧

物 品	必要数	備 考
<p>①ディスペンサー付きボトル</p> 	<p>実施人数により各施設ないし各クラスに1個</p>	<p>洗口液を調製するために使用する。 容量は一週間分の洗口液量に応じて選ぶ。 ※フッ化物洗口液であることを明記すること。 ※施設の実施人数が多い場合は、ポリタンク等で洗口液を作成・貯蔵し、ディスペンサー付きボトルに分注してもよい。</p>
<p>②フッ化物洗口剤</p> 	<p>実施人数による</p>	<p>ミラノール又はオラブリス ※必要量については16ページ「必要な薬剤量の目安」を参照する。</p>
<p>③コップ</p> 	<p>一人1個</p>	<p>紙コップ又はプラスチックコップ ※ガラスコップはフッ化物により腐食するため、使用しない。</p>
<p>④音楽CD</p> 	<p>実施人数により各施設ないし各クラスに1枚</p>	<p>洗口時間（30秒～1分間）を測る。 ※タイマー、砂時計等でもよい。</p>
<p>⑤保管庫</p>	<p>1個</p>	<p>希釈前のフッ化物洗口剤は、鍵付きの棚やケースに保管する。</p>
<p>⑥収納具</p> 	<p>実施人数により各施設ないし各クラスに1個</p>	<p>ディスペンサー付きボトルやコップ等の物品を収納する。 ※フードボックス、水切りかご等を活用する。</p>

⑦廃棄用物品	必要数	<ul style="list-style-type: none"> ・紙コップの場合：ティッシュペーパー、ごみ袋 吐き出した洗口液をティッシュペーパーで吸い取り、紙コップごとごみ袋で回収し、可燃ごみとして廃棄する。 ・プラスチックコップの場合：ポリバケツ 吐き出した洗口液を捨てる際に、洗い場が不足する場合等に使用する。
--------	-----	---

(5) 実施手順

①準備

フッ化物洗口剤を保管庫から取り出し、必ずフッ化物洗口剤出納簿（様式例3）に記録します。ディスペンサー付きボトルに決められた量の洗口剤と水を入れ、粉が残らないようにしっかりと振って溶かします。

ポリタンクで溶解した場合は、クラス分の洗口液をディスペンサー付きボトルに分注します。洗口液が少なくなると正確に計量できなくなるため、ボトルの洗口液は使い切るのではなく、残り50～100ml程度は廃棄してください。

②配布

各クラスにて、洗口液をワンプッシュ1人分ずつ紙コップに分けます。ワンプッシュの洗口液の量はボトルによって異なり、オラブリス集団洗口用溶解瓶の場合5mlです。

初回分は量が一定にならないため、1、2回は空押ししてください。



③洗口

先生の合図で紙コップに入った洗口液を口に含み、ブクブクうがいを始めます。液がよく歯にいきわたるように30秒～1分間うがいをします。口は閉じ、やや下向きの姿勢で口中に液がいきわたるようにしましょう。

フッ化物洗口を希望しない園児には、水道水などでうがいをさせるなどの対応をします。

洗口後は、口の中の洗口液をコップへ吐き出します。紙コップを使用している場合は、そこにティッシュペーパーを1枚入れて吸水します。

④片付け

吐き出した洗口液は、紙コップごとごみ袋に入れて回収します。紙コップを回収したごみ袋は可燃ごみとして廃棄します。

プラスチックコップで洗口を行った場合は、コップの中に吐き出した洗口液をポリバケツに集めて捨て、プラスチックコップをよく洗浄します。

洗口後30分間は飲食やうがいを避けましょう。

余った洗口液は冷蔵庫等の冷暗所で保管します。冷蔵庫であれば、1か月程度は保存可能ですが、週に1回程度は余った洗口液を廃棄します。

ディスペンサー付きボトル等は流水でよく洗浄後、よく乾燥させます。可能であれば定期的に0.02%次亜塩素酸ナトリウムで消毒してください。